

## 地域懇談会実施報告書

自治会名 俵町自治会

開催日 7月1日(火)

時間 19:05 ~ 20:45

開催場所 俵町公民館

参加人数 30人

懇談内容 別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

対応



行政側参加者氏名

庶務課行政管理係 丸山 進  
飯島 秀美  
庶務課秘書係 田中 久登

記録者氏名

庶務課行政管理係 飯島 秀美

# 俵町自治会地域懇談会会議録

平成 20 年 7 月 1 日 19:05 ~

## 1 自治会長あいさつ

先週日曜日、大雨の影響により町内の水路が氾濫したときがあった。市役所に電話をしたところ、建設課の職員が現場に来てすばやく対応してもらい感謝している。

## 2 市長あいさつ

地域懇談会は昨年の6月から開催し、今回で33回目、複数の自治会による共同開催もあるので、自治会数にして51自治会との懇談会となる。大町市全体で99の自治会があるので、「道半ば」といった段階である。

従来は大町地区1か所で「市政懇談会」という形で懇談会を開いたために、自治会役員や各団体の役員に来ていただくのが精一杯で、市としても予め伺ったご要望やご意見等に対して、私や副市長、各部長がお答えをする議会方式で実施していた。市民のみなさんのさまざまなご要望やご意見に対して、率直なやりとりがしやすい会合とするため、このような小さな単位での懇談会を開催させていただいている。

いままでは「公助」として、財政力や行政に蓄積されたノウハウで、市民の皆さんのニーズやさまざまな課題が解決できていた。しかし今は行政だけで進めていくことには限界があるという時代が来ている。行政の力だけでは解決できない新しい課題を、住民の皆さんのご意見をお聞きしながら取組んでまいりたい。また実施する過程から住民の皆さんに参加していただいた方が、より大きい効果が得られるのではないかと考えている。

本日の懇談会は、今、大町がどのような状況にあり、これから、どのような方向に向かって仕事を進めようとしているのか、第4次総合計画についてお話し、それを踏まえて、みなさんの率直なご意見をいただきたい。

第4次総合計画について(ダイジェスト版により説明)

5P 基本理念、将来像、経営像

8P めざすまちのテーマ「6本の柱」

(省略)

## 3 懇談開始 【19:30】

### 出席者

説明いただいた第4次総合計画の中でさまざまな計画・目標が掲げられている。特に産業振興の分野について目標を遂行するうえで、市の中でプロジェクトチームを立ち上げるなどの取組みを実施していると思うが、市の組織の中での仕組みはどうなっているか

るのか。

#### 市長回答

二つの仕組みがある。一つには市の組織にはそれぞれの分野に応じてタテ割りの組織がある。産業の誘致・振興は産業建設部商工労政課の工業振興・企業誘致担当の職員が担当している。企業への打診、企業回りも私に同行し、訪問した企業からの質問や情報提供などの実務を担う専門のセクションを配置してある。

もう一つは、仮に企業誘致が具体化した場合、産業用地が農用地の場合には農業振興地域からの除外や農地転用、また大規模開発であると開発行為等の手続きも必要となる。その場合、本来ならばいくつかのセクションにそれぞれの許可申請を行う必要があるが、ワンストップで各セクションが連携をとって、企業誘致に向けたさまざまな手続きを進める、プロジェクトチームを立ち上げてある。まだプロジェクトチームで対応する具体的な段階までは進んでいないが、実現に向けて力を合せてまいりたい。

#### 出席者

大町の特性を活かした企業の誘致に努力していただきたい。

#### 市長回答

今、まさにやり始めているといった状態である。「産業用地のご案内」というパンフレットを作成し、東洋紡跡地を紹介している。敷地内には5本の井戸があり、豊富な地下水が活用できる。また、勤勉な労働力を確保でき、美しい豊かな自然に囲まれた癒しの空間・といった3点を重点にしてPR活動に努めている。大町市民が好きになれる企業、来てくれる企業も大町が好きになるような、そんな企業誘致を進めている。

また、企業の情報収集力・分析力に対応するような情報を提供するために、一日の気温の変動や降雨量等のデータもリーフレットに掲載しPRに努めている。

#### 出席者

今までは行政が主体で市政を動かし、どちらかというと市民が置き去りにされてきた感じがする。審議会等も形ばかりのものという感じがあった。協働して市政を行うためには、市民が自らの考えを行政に伝え、納得した回答が得られるような総合的な窓口となる場があった方が良くと思う。

#### 市長回答

総合案内という機能で課題が解決できれば一番良いことだが、行政の組織にはそれぞれの業務の権限と責任を明確にするためにいくつかの部署にまたがっている。また、市民課等のように個別に対応しなければならない業務があるため、さまざまな

セクションに分かれていることはご承知いただきたい。

市役所に市民の方が見えたと、一つには、何処に行ったらよいかわからない、誰に相談したらいいかわからないというケースがある。それはサービスの一環として市役所に気安くお越しいただき、どこにでも声を掛け易くなるような、まごころを込めた対応を心がけることで解消しようと努めている。もう一つには、大町市に転入手続きの際、住民票の異動や水道の開栓等いくつかの窓口を回って手続きをしていただく場合がある。このような場合は、まずどんな手続きが必要かといことを事前にお知らせし、スムーズに、手間をかけさせないようなご案内をするようにと心がけている。

このような窓口業務ではなく、市政へのご意見、ご提言などの場合は違って来る。市では毎年「市長への手紙」専用用紙を広報6月1日号に折り込んで配布している。またメールでご意見をいただく場合もある。手紙やメールをいただいた場合は、まずコピーをとり担当する課に渡し、同時に私も読み内容を検討し、対処すべきことを指示し、回答を担当課において作成する。その回答案を私が目を通し、指示したことが反映されているのか担当課とキャッチボールをしながら、最終的に私の考え方と担当課の考え方が同じになったところで、成案としサインをしてお返事を出すことになっている。ご要望いただいた案件のすべてが解決されるとは限らず、ご要望に添えない場合もある。そのときには、要望に添えない理由もきちんと説明するようにしている。いただく手紙の用紙はどんな様式でもかまわない。広報に折り込んだ専用用紙を利用いただいても良い。専用用紙には切手を貼って投函していただく必要がある。必ず私が目を通すことになっている。また、担当課に電話で連絡していただいても良い。ご意見、ご要望を決しておろそかにしないようにと、職員においても意識を統一している。

#### 出席者

市長に就任して2年間、その間、いろんな種を蒔いてきたと思う。その種が芽吹き花を咲かせるように、成果に結びつける2年間にしていきたい。

#### 市長回答

昨年までは様々な計画づくりをしてきた。審議会には公募の委員さんにも加わってもらい、計画をつくる過程からいろんなご意見をいただいている。いただいたご意見で計画を煮詰め、市民の皆さんと一緒に進めていくという決意表明にもつながる。第4次総合計画を具体的に進めていくための個別の計画がある。市民の皆さんとの合意形成のなかで作成された計画を、市民の皆さんと共に進めていくのがこれからの2年間であると考えている。成果に少しでも結びつけるよう職員にも呼びかけている。呼びかけだけでは組織が大きく動いていくというわけではないが、一丸となって粘り強く取り組んでいきたい。

#### 出席者

文化会館に芸能人が来たときに、大町の印象を聞かれ「大町はなにもないね」と言われたことがあった。会場の観客はただ笑って聞いているだけであった。大町にも素晴らしいものはたくさんあると思う。例えば日本唯一の山岳博物館、そのことを住民自身が感じていない。もっと自信を持ち、大町の良さを誇ってもよいと思う。市民の気持ちが前向きになるような取組みをしていただきたい。

#### 市長回答

昨年の3月に、文化会館で伊勢正三さん、太田裕美さんのコンサートが開催された。そのときに「大町は水の美味しいところですね。お酒も美味しいですよ。」といわれ、間違えて諏訪のお酒の名前を出したことがあった。後日、私からお二人の所属事務所に手紙を添えて地酒を送り、大町にも美味しい地酒があると宣伝をしたことがある。

本質的に大町の人には謙虚で控えめな性質で「大町なんてダメせ。なんにもないところ。」と言ってしまうがちである。ただ謙虚な気持ちで本人は言っている、知らない人が聞いたら「大町は何にもない、本当につまらないところなんだ。」と思われてしまう。大町の人にも本当に「ダメせ。」とは思っていないはず、まずは「ダメせ。」とは言わないように心がけていきたいものと思う。

大町には素晴らしい観光資源がたくさんあり、それを市民自身が自覚し、磨き上げていく努力をしていかななくてはならない。行政がする努力、市民の皆さんが主体的にする努力、両者が力を合せてする努力がそれぞれ必要である。市でも精一杯努力し、さらには県や国の応援をいただきながら、大勢の人を巻き込んで取組んでいかなければならないと思う。

先ほど、「市長への手紙」の専用用紙は切手を貼って投函いただくと申し上げたが、切手を貼らずに郵送できる仕組みになっているようである。2年前にこれを検討した際に、担当課は郵送代を有料にした方が、内容に責任を持っていただけるのではないかと提案したが、私は誰でも気軽に出せるようにするため、切手を貼らずに出せるようにと主張し、私の意見が通ったようである。(後日確認の結果、「市長への手紙」の専用用紙で投函する場合80円切手を貼る必要があることが判明、自治会長さん宛に訂正の文書でご連絡することとした。)

#### 出席者

大町の自然が好き、山が好きと移住してきてくれる人がいる。空き家に入りたいという希望を持った人も入る。白馬村にはオーストラリアからの人々が大勢入ってきている。スキー場も数か所あるが目立って経営が悪いとも聞いていない。東南アジア、中国、韓国などの海外の国々からの観光客の誘致もこれからは必要となってくると思う。どのような対応を考えているのか伺いたい。

### 市長回答

昨年のスキーシーズンは一昨年に比べ 30%客足が戻った。しかし、一昨年が大幅に低かったため、戻ったといってもピーク時に比べるとまだまだ低い状態である。原因としては、スキー人口の減少が続いていることが一因である。また、以前は一泊二日の行程でスキーに訪れたが、今は道路事情が良くなるなど、日帰りで訪れる人が多くなり、レジャーのパターンが変わってきている。日帰りでもリピーターとして何度も来ていただくような付加価値をつける必要がある。トータルレジャーとして工夫して、魅力を持たせる努力も必要となる。

白馬村の例では、外国からの観光客の主流は、韓国とオーストラリアからのスキー客である。北海道のニセコはオーストラリアのスキー客のメッカであったが、受入が飽和状態になったため、そのお客さんが白馬に流れてきている。韓国からの観光客は小松空港や富山空港を利用して日本にやってくることが多い。スキー場では空港までの送迎サービスを行っている。さらに送迎バスには韓国留学生をガイドとして同乗させ、観光客に安心感を与えるサービスをしており、クチコミで観光客を広げていると聞く。そのような地道できめ細やかなサービスが鍵となり集客をしている。

夏の観光でいえば、立山黒部アルペンルートがある。昨年は開業以来始めて100万人を切ってしまい、98万人弱であった。そのうち1割以上が外国からの観光客である。国内での観光PRはもちろんのこと、海外からの集客活動にも力を入れ、特に台湾・韓国・中国をターゲットにして、観光協会が中心となり海外のエージェントに向けたキャンペーンを展開している。エージェントが大町に興味を持ち、ツアーを企画してくれるような、きめ細やかな働きかけをしているところである。これからは国際化なしには地域経済の活性化は考えられないと思っている。

### 出席者

毎年8月に信濃木崎夏期大学が開催される。私は4年間続けて参加している。あれだけ素晴らしい講師を呼んでくることは難しいと思う。通常の講演会であると一人当たり最低70～80万円かかると思うので、総額600～700万円程度の知的財産を信濃木崎夏期大学にかけていることになる。市の教育委員会も関わっていると思う。そのような素晴らしい機会をいかにして、教育現場に活かされているのか、どのように子どもたちに教えていくのか伺いたい。

### 市長回答

私も受講した経験があるが、とてもレベルが高く、ある程度の素養のある人が聴いても難しい内容である。一般の子どもたちが理解できるような講義ではないと思われる。

信濃木崎夏期大学の建物は市の持ち物であるが、地域の小・中学校の教師たちで組織する北安曇教育会が運営しており、今年で92回の開講となる。おそらく講師の

方々へお支払する講演料は、通常の半分以下の講演料で来ていただいているのではないかと推測する。格調の高い素晴らしい先生方の講義を少しでも多くの方に聴いてほしいと願っている。広報でも7月1号にリーフレットを組み込んで紹介している。受講者の多くは教師で、教師から子どもたちにかみくだいて教えるという方法もある。かなりレベルの高い珠玉の講義となっている。是非、多くの市民の皆さんにも受講していただきたい。

#### 出席者

転勤で大町に移り住んで1年になる。私は自然の恵みを享受する仕事に就いている。大町は素晴らしい自然を有している。天の川が見え、ホタルが飛び交い、夜真っ暗になる。住んでいる人には当然のことが、私にとっては驚きである。子どもたちにとっても自然と触れ合うことができ、素晴らしい体験となっていると思う。縁があって大町に来たが、自然を満喫している。地の利の悪さが幸いしてか自然が守られている。市にとっては人口増が懸案事項だと思う。無責任ではあるが、手のつかない自然も「きらり」と残してほしい。転勤で大町から離れても、必ずまた大町にやって来ると思う。地元に住む人間には当たり前すぎてわからない、素晴らしい自然を残すことにも力を注いでいただきたい。

#### 市長回答

今は開発のために自然を壊すという時代ではない。自然を守りながら地域の発展を支えていくことが大事になっている。

山は先人たちが守ってきた面もあるが、天与のもの。平地の農村風景は地域の人々が力を合わせ、田を耕し、水を張り、稲を植えつけ、畦草を刈るといった、汗を流して守ってきたものである。みんなが守っている自然の美しさに、地元住民が気づいて、さらに守り続ける努力をしてほしいと思う。

#### 出席者

「北アルプス平日夜間小児科・内科急病センター」に受診した際、他の科の医師が当番で診療に当たっていた。診察中、聴診器を当てることもなく、「お母さん、どうしてほしいですか？」と聞かれた。急な発熱に夜間も診療が受けられると安心して受診したのにもかかわらず、がっかりして帰ってきた。是非、小児科・内科担当の医師を置いていただきたい。

大町病院の皮膚科を受診した際に、院外処方近くで近くの薬局に薬を受け取りに行ったところ、その薬局の周りに白い柵が置かれており、薬局へは遠回りしないと入れないことになっていた。小さい子どもを抱えた方、身体の不自由なお年寄りには利用しづらいのではないかと思います。どうして柵を設置したのか伺いたい。

## 市長回答

についての回答

「北アルプス平日夜間小児科・内科急病センター」は北アルプス広域連合が運営しており、診療体制については、大町病院等の医師や開業医の医師の協力により、当番制で診療に当たっている。小児科・内科の医師だけでは人数が足りず、維持できないため、他の担当科の医師にもご協力いただいている。大北医師会では、小児科・内科以外の医師には小児科・内科診療に対応できるように研修を受けていただき、診療体制に加わっていただいている。基本的にはどの医師も診察ができることになっているが、より専門的な科の医師の場合、不得意な分野だったのかもしれないと推測する。またお母さんのご意向を伺ったとすれば、それがその医師の診察方法であったのかとも思う。しかし患者さんに不安を与えるような診療ではならないので、ご意見を診療側に必ず伝え、責任を持った診療体制にしたいと考える。医師不足のなか、苦心してローテーションを組んでいるという現状もご理解いただきたい。

についての回答

現在、その薬局の周囲には白い柵が設置されている。以前は大町病院からバイパス通りに入るまでの所に入出口があったが、ある時、「大町病院の敷地続きに薬局を設けることは、その薬局だけに便宜を図ることになり、他の薬局と公平性を欠くのではないか」とのご意見をいただいた。相談、検討の結果、その薬局の病院側に柵を設け、一旦公道に出てから、薬局に入るという仕組みになった。以前、「市長への手紙」でも同様のご意見があったので、利用者の皆さんにご不便をお掛けしていることは承知している。また、そのことが真の公平ということなのかどうか、疑問にも感じている。病院から離れている薬局でも、質の良いサービスが受けられるとか、処方の際に待ち時間がかからない等の薬局もあると思う。しかし、薬局間の公平性を保つために薬局側と病院側との相談の結果、柵を設けたということをご理解いただきたい。いただいたご意見は病院側に伝えたい。

## 出席者

農地の荒廃が目につく。最近輸入食品の問題等も報道され、食生活にも不安を抱えている。地産地消への取組みにも関心が出てきていると思う。国としての対策もあると思うが、市としての考え方、取組みを伺いたい。

## 市長回答

国内の食糧自給率は39%と先進国の中でも特に低いといわれている。日本では多くの食糧を輸入に頼っている。世界中でも食糧不足が懸念されつつあり、国内でも一定程度の自給率を維持していかなければならない。

そうした中で農業を考えたとき、国の方針は二つあり、一つは担い手の確保・育成であり、もう一つは農業基盤の整備である。そのために集落営農などによる効率的な

農業の仕組みを構築することが必要となってくる。市内にはライスファーム野口という農業生産法人があり、周辺地域の農地を集積し122haの農業経営をしている。このような団体は市内に10ほどあるが、個人の農業者が高齢化し、農業経営が立ち行かなくなっている中で、地域の農業を支えていく受け皿として重要な役割を果たすものであり、市として支援してまいりたい。

国内では米余りの状態で、国の政策として生産調整を実施し助成する仕組みもあるが、それだけでは足りないため、市では単独でそばの作付けに対し奨励金を上乘せして助成している。

地元で生産したそば粉は、外国から輸入されるそば粉より割高になるため、なかなか市内で流通するのは難しい。しかし、地粉を使った大町のそばとしてブランド化する試みが始まっている。市内では新行ほかのお蕎麦屋さんで取組んでおり応援してまいりたい。

農業は苦勞の多い作業である。畦草刈り等、直接収入に結びつかないような作業も多い。地域全体で農業経営を支援するような仕組みづくりを考えていく必要があると思う。

#### 4 市長からお礼のあいさつ

いただいたご意見はきちんと担当課へ指示し、つなげていく。「昨日より今日、今日より明日」へと進化してまいりたい。

お気づきの点は、お気軽に申し出ていただき、市を良くしていく材料とさせていただきます。

#### 5 閉会のあいさつ 自治会長

【20:45終了】